

第5学年 社会科実践報告

指導者 長浜市立高時小学校

臨時講師 片桐美智代

1. 単元名 水産業の盛んな地域

2. 単元目標

- 我が国の水産業について、水産物の漁獲量や主な漁港、漁場などの分布、従事している人々の工夫や努力などを取り上げ、添えが国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかかわりがあることを理解できるようにする。(理解)
- 我が国の水産業が、それに従事している人々の様々な工夫や努力によって発展していることや、そのことにより国民生活の維持と向上が図られていることに関心をもつようにする。(態度)
- 我が国の水産業について、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料や効果的に活用して調べ、国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていることや、自然環境と深いかかわりがあることを考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。(能力)

3. 単元について

(1) 教材観

大単元「私たちの食生活と食料生産」は、「米つくりの盛んな地域」と「水産業の盛んな地域」と「これからの食料生産」の3つの小単元から構成される。この単元の前に米作りを通して日本の農業問題について学習している。農業に携わる人達の高齢化や輸入農産物の問題など、水産業とリンクするものが多い。

(2) 児童観

子どもたち住む地域は、己高山のふもとであり高時川が流れる自然に恵まれた地域である。また、多くの寺社も存在し、伝統と文化を大切にする地域でもある。たくさんの田畑が存在し、農業については関心が高い。しかし、水産業に関しては琵琶湖からも離れているため、釣りが好きな児童が魚の採り方をよく知っている程度である。

(3) 指導観

子どもたちが大好きなお寿司から日本の水産業について興味を持たせ、日本のどの場所で魚の水揚げ量が多いのか、その理由についても教科書や資料集などの写真や図表を見たり、地図帳で実際に地形の様子などを調べたりすることで気づかせていきたい。

また、200海里問題や水産業に携わる人達の高齢化や輸入品の増加など日本の水産業が直面する問題について考えさせ、持続可能な漁業の取り組みに向けて資源管理の取り組みや適正な資源管理を行う漁業で漁獲された水産物につけることができる「海の

エコラベル」について理解させたい。

最後に、地域の漁協組会の方と連携し、高時川の漁協組会の活動について知らせるとともに、実際に放流活動に参加することで自分たちができる持続可能な漁業の取り組みとなっていることに気付かせたい。

(4) ESD との関連

・学習を通して主に養いたい ESD の視点

[多様性] 日本の水産業のさまざまな漁について理解を深める。

[相互性] 長崎漁港の例から日本の水産業について考えを広げることができる。

[責任性] 持続可能な漁業の取り組みである栽培漁業を含む資源管理の取り組みについて理解する。

[連携性] 地域の漁業組合と協同して放流する活動を通じて、漁協の多面的な活動について理解する。

・学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

・クリティカル・シンキング・・・このまま魚を取り続けて起こる問題についてより良い解決策を考察することができる。

・長期的思考力・・・魚を採りながら魚を増やす方法について考えることができる。

4. 評価基準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
我が国の水産業が国民の生活を支えていること、主な漁港、漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて理解している。	我が国の水産業の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことをもとに、我が国の水産業が国民の食料を確保するために重要な役割を果たしていること、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、調べたことや考えたことを適切に表現している。	我が国の水産業の様子に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、国民の食生活を支える我が国の水産業の発展を考えようとしている。

5. 単元展開の概要 全12時間

主な学習活動	学習への支援	評価・備考
--------	--------	-------

<p>1・水産業に関心をもち調べようとする。</p> <p>①どのような水産物を食べているのだろう。</p> <p>②魚は日本の周りの海のどこでとられているのだろう。</p> <p>2. 水揚げ量の多い漁港がある長崎漁港は、どのような水産業が行われているのかを調べる。</p> <p>①漁港やその周りにはどのような魚がとられているのだろう</p> <p>②魚をどこでどんな方法でとっているのだろう。</p> <p>③どうしてマアジを海のいけすにわざわざうつしかえているのだろう。</p> <p>2. このまま魚を採り続けても大丈夫なのか、漁獲量や働く人のことで困ることはないのか調べる。</p> <p>①日本はどうして漁獲量がへっているのだろう。</p> <p>②養殖業をしている人たちはどのように魚をそだてているのだろう。</p>	<p>・日本の周りの海には暖流や寒流が流れていること大陸棚がひろがっていることから豊かな漁場であることに気付かせる。</p> <p>・漁港の周りには活魚センターや水産加工施設などがあることが水揚げ量の多い理由であることに気付かせる。</p> <p>・沖合で巻き網漁という方法でマアジがとられているが役割の違う船で一つの船団を組み多くの漁獲量を上げる工夫をしていることに気付かせる。</p> <p>・マアジをブランド化することで安定した収入を得る工夫をしていることに気付かせる。</p> <p>・日本の周りの漁場の環境の悪化や魚の取りすぎに気付く。</p> <p>・また、水産業に携わる人たちの高齢化や輸入量の増加にも目を向けさせる。</p> <p>・養殖業が人の手で育てて出荷することから計画的に安定した収入を得ることができることに気付かせる。</p> <p>・赤潮の発生、海の汚れで魚が死ぬことや、えさの原料が輸入に頼っていることにも目を向けさせる。</p> <p>・水産資源に限りがあることに気付く、栽培漁業も含めた魚を採りながら増やすために、水産物の資源管理が行われていることを知らせる。</p> <p>・海はつながっていることから地球</p>	<p>*日本の水産業について興味を持って調べようとする。[態度]</p> <p>*様々な施設が充実していることから長崎漁港の水揚げ量が多い理由について考えている。[思考・判断・表現]</p> <p>*巻き網漁の方法など働く人の工夫について理解している。[理解]</p> <p>*我が国水産業が抱える問題について考えている。[思考・判断・表現]</p> <p>*栽培漁業を含む水産物の資源管理の取り組みから、持続可能な漁業のあり方について考えを</p>
--	---	---

<p>③漁獲量を増やすためにどんな取り組みを行っているのだろう</p> <p>3. 高時川の漁協はどんなことをしているのだろう。</p> <p>①漁協の仕事について知ろう。</p> <p>安定した漁場として魚を増やす活動。 カワウの被害を減らす活動 外来魚の駆除 魚のすみかや産卵場を管理</p> <p>②放流体験をしよう。 マスの稚魚を高時川に放流する。</p> <p>③学習したことをもとに、標語をつくろう。</p>	<p>全体での取り組みが必要であることに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の漁場組合の方から高時漁協の仕事について説明を聞き、地域の人たちの努力について気付かせる。 ・魚をまもるために禁漁の時期があることにも気付かせる。 ・高時川環境を守るために自分たちができることを言葉にさせる。  	<p>深めている。</p> <p>[態度]</p> <p>* これからの水産業で大切だと思うことを個人新聞としてまとめ自分の考えを表現している。</p> <p>[思考・表現・判断]</p> <p>* 川や湖でも、様々な取り組みがなされていることを理解する。</p> <p>[知識]</p> <p>* 豊かな川を守るためにみんなに働きかけることができる。[思考・判断・表現]</p>
--	---	--

6. 成果と課題

- ・自分たちの食べている水産物が外国に頼っていることを知らなかった児童がほとんどであったが、この学習のあと、自分たちの国の水産物に目を向けるようになった。
- ・働く人たちが高齢化していることが、大きな課題であることは、農業だけでなく水産業でも共通することであることに気付くことができた。
- ・自分たちの住む地域の高時川でも漁協組合が存在し、自分たちの漁場を守るためにさまざま活動をしていることを理解することができた。また放流後の標語づくりからも、実際に放流活動に参加できたことで「次の世代にこの川を残していかなければならない。」というような子どもたちの意識を感じることができた。